ステンレス色の表面処理開発

神山鉄工所

自己治癒機能つき高耐食

㈱神山鉄工所（東大阪市、神山貴至社長）は「テクノメッセ東大阪2021」に出展し、自社で開発したSUS410製ねじ向け表面処理「ブランカ」のサンプル品を展示した。あわせて、ねじ打ち込みのデモンストレーションを行った。

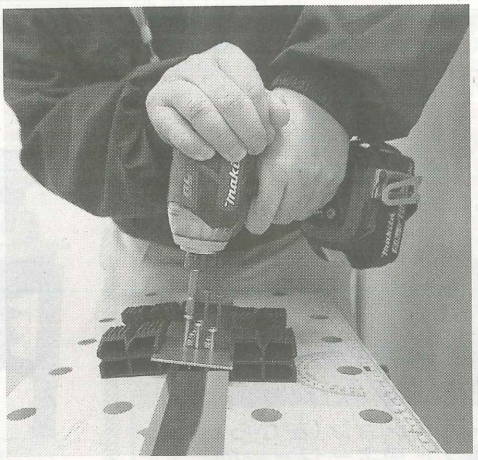
同社は昨年、新たなめっき開発に着手。表面処理を開発することは初の試みだったが、めっき業者や薬品業者と協力し、次世代高耐食性ノンクロム電気亜鉛めっき「ゼロクロメート」の開発に至った。

今回のブランカはそれに続く表面処理で、対象をSUS410製ねじに絞った。RoHS指令とREACH規則に対応している。ブランカはスペイン語で「白」を意味する。美しいステンレス色を損なわない白い（無色）表面処理をイメージした。

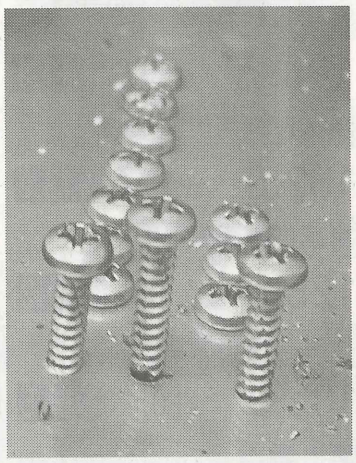
ブランカは、塩水噴霧SST試験4000時間以上を実現。犠牲防食が働くことで、赤錆発生を抑える。野外暴露試験（塩害地域）でも、鉄板のもらい錆びに対し、赤錆を抑えることができる。電蝕も発生しない。不働態被膜（パシペート等）からの付け替えも可能となった。

耐食性も強化した。疵に強く自己治癒機能があるので、疵がついても元通り。外観もステンレス色を保つ。加えて、表面が硬くステンレス鋼板にも施工可能。ねじ込み時、焼付（カジリ）が起きにくく、ねじ込みトルクを軽減した。

このようにブランカは、主に建築向けねじを手掛ける同社だからこそ分かるニーズを反映させた仕様となっている。



ねじ打ち込みのデモ



ブランカの製品サンプル

耐食ステンレス軸受

ジェイテクト　耐摩耗性を向上

㈱ジェイテクト（愛知県刈谷市）は、高機能フィルム製造装置などで使用する耐食軸受として、従来品から耐摩耗性を向上させ軸受寿命を約2倍延長させた「コロガードプロベアリングーLS」を開発した。装置メンテナンス周期の延長に貢献する。

一般的に防錆油の使用できない環境では錆を防止するためにマルテンサイト系ステンレス軸受を使用するが、水や溶液など腐食性がより高い環境では析出硬化系ステンレス鋼を用いた軸受が使用される。析出硬化系ステンレス鋼は通常の軸受用ステンレス鋼と比べ耐食性は高いものの硬度が低く耐摩耗性に劣る部分がある。使用条件によっては短い周期で軸受交換を実施していた。今回同社は、装置メンテナンス周期の延長（交換頻度低減）に貢献するため、「コロガードプロベアリングーLS」を開発した。

軌道輪（内、外輪）に高耐食ステンレス鋼を採用することにより従来品と比べ、①軸受の寿命が約2倍に向上（摩耗深さは従来品比約75％低減）②軸受の交換回数削減によりお客様のランニングコストを低減ーといった効果が期待される。通常のステンレス軸受では対応できない腐食環境には寿命の長い開発品を適用し、開発品でも対応できない一部酸環境は従来品を適用する。

狭小耐力壁を新発売

岡部

岡部㈱（東京都墨田区、河瀬博英社長）は、12月10日に狭小耐力壁「プレスタ H. Tiny」を発売する。

また壁内への同製品の設置高さも自由に設計することができるためこれまで雑壁となっていた狭小な壁を、設計者のイメージ次第で、より魅力的な空間を創造する素材として扱えるようになる。

同製品の適用可能な壁の高さは、横架材心間距離で2250～3185ミリメートル。短期許容せん断耐力3・9kN（壁倍率相当4・4倍、壁の高さ・

桑原香織さんはこの10月、㈱エマナック（大阪府守口市、田中良典社長）初の女性金属熱処理1級技能士となった。かねてより製造業に興味があり、2009年に入社。現在は京都工場（京都府亀岡市）で主に生産計画を担当し、合間を縫

士

を納期までに間に合わすことができ、お客様から『ありがとう』と言っていただいた時はとても嬉

事内容に大きな変化はないというが、「責任ある仕事を任されることが増え、取得した知識も様々

SCM435
太径＊長尺サイズキャップスクリュー
M3×110.M4×150.　M5・M6×250L　まで
M8×300.M10×350.M12×500L　まで
M16・20・24・30・36×800L　まで
M14・M18・M22・M27・M33・M42・M48×300L　まで
全ネジ＊細目キャップスクリュー
全ネジM3～M36　＊細目M6～M20